

3月末に退職／加藤教育長インタビュー

豊橋市教育委員会の加藤正俊教育長が、3月末に退職する。3期11年半にわたる市の教育行政のトップを務め、改革に挑戦し続けた加藤氏に話を聞いた。

(地方政治クリエイト・伊藤秀昭)

「長い間、お疲れさまでした。3期、11年6カ月、させて頂いた頂きました。お世話になりました。かねがね、教員O日が1期4年で交代されていましたが、それでは変化の激しい教育行政のキャッチアップが難しいと思っていました。」

それと、2004年9月に松葉小学校長を退職する時に、3、4年生が泣き出し、5、6年生の怒った顔がまだに忘れられない。だから、何とか年度末の退職を願ってきて、それもかなえられて安堵(あんど)しています。

「教育振興計画」の後期見直しもでき、教育委員会制度が大きく変わるというこの時のタイミングで辞めさせていたたくらみにしました。一随分、多くのことに取り込まれてきましたが、特に力を入れてくれたことは、

12年前に兼任してからの「教師を育てること」に全てのエネルギーを注いできました。子どもたちにとって最大の教育環境は教師ですから、幼少頃、多様な青春時代に、偶然にも出会った教師の存在がその人の生涯に大きな影響を及ぼすという役割があります。

その反面、逆の作用もあるわけで、「私たちが教員(先生)を立て、教師と(先生)を繋ぐことを徹底が同居している人(人々の場)です。」

それは人として、人間としての在り様、生き方が問われているということになります。だから、「人間教師」にならなければ

理念と哲学持ち人間教育を

改革に挑戦し続けた3期11年6カ月



加藤正俊教育長

ばいけいなのです。理念と哲学を持って、人間教育に挑戦してほしいと願っています。

「教育委員会制度も大きく変わりました。私たちの使命は、ハード・ソフトの両面から教育環境をどのように整備するかにかかっています。教育現場に軸足を置きながら、市長部と連携し、予算権を持つ市長と、予算権を持たない教育委員会とが情報を共有し、協働連携ができるかどうかがかかっています。」

教育委員会としての教育課題を明らかにして課題解決の推進役を担ってほしい。豊橋の教育長は東三河の教育のリーダーです。新しい体制に期待しています。

「6年前に浜名湖で悲しい事件がありました。あつてはならないことを、抱えてしまった思いは今も変わらないです。関わった人たちの人生が急に変ったのです。刑事的な区切りはつきました。ご遺族にも理解していただいた。でも「花菜さんの命を無駄にしてはいけない」と一生背負っていきますよ。あの事件を風化させてはいけないから。」

「一大津のいじめ事件から始まって、今や子どもの虐待にまで広がっています。」

高度成長で豊かな時代を享受した人間が、どこかで、何かを忘れてしまっています。これを取り返したいですね。みんな貧乏じゃなかったけど、助け合って生きてきた、あの昭和の風景を取り戻したいね。

その力キを磨いているのは地域、なかんずく自治会だと思えますよ。私も今年が自治会の組長をやらせていただいているが、一人暮らしのお年寄りを毎月訪ねて声をかけている。

災害の時に、こういう人たちのところへ真っ先に走ってくれるのは、小学高学年の子だし、中学生。だから、みんなで役割を分担して社会全体で学校や地域を支える「チーム学校」「チーム地域」を作り上げるのが大事だと思えますよ。

悔いはいらないですか。悔いはいらないです。やってきたことに対する誇りと自負はあるけれど、もう少し、やっておきたかった、やり残したことの思いもありますよ。引きずっていません。すーっと。

「これから教育の現場に立つ人たち。経験が浅いとスキルや技術に目が行きがちですが、自分でしっかり穴を掘って根っこを堅固にして人間教師を目指してほしい。」

「この人の背中を押しているのは何なんだ」と考える時、ある光景を思い出す。それは教育長が学校教育課長から現場の校長に赴任した年に長男を亡くされ、落ち込んでおられた時があった。

その時、私は「風子さんの分まで、前を向いて生き抜いてください」とお話しすることがあった。生きておられれば、社会の第一線で働いておられたはず。そんな風子さんの面影を追いかけて、風子さんに背中を押されていたのでないか。オヤジさんババア。

山西教育長案で同意

新設 教育監には駒木氏

豊橋市議会

豊橋市議会は3月29日の本会議で、任期途中の3月末で退任する加藤正俊教育長(67)の後任に、同市教育委員会学校教育課長の山西正泰氏(54)を、新設の教育監に同市教委教育



初代教育監となる駒木氏は1977年に公立学校教員に採用され、新設東高校長や豊橋東高校長を歴任し、昨年4月から現職。

総合アドバイザーの駒木正清氏(61)の写真を添えて人事案に同意した。任期は、ともに4月1日から3年間。人事案の同意後、山西氏は議場であいさつ。「職責の重さ、身の引き締まる思いです。豊橋の教育